

諫早市教育委員会議事録
令和6年第7回（6月定例）

令和 6 年第 7 回（6 月定例）教育委員会

- 1 日 時 令和 6 年 6 月 2 8 日（金）
1 6 時 3 0 分～1 7 時 1 0 分
- 2 場 所 諫早市役所 7 階 会議室 7－1
- 3 出席者 教育長 石部 邦昭
委 員 原田 裕介
委 員 山口 秀雄
委 員 中野 高子
委 員 小野 靖彦
- 4 会議に出席した事務職員
教育次長 石橋 芳秋
教育総務課長 新野 純子
学校教育課長 田上 顕二
生涯学習課長 竹島 健吾
- 5 議題
議案第 1 1 号 諫早市社会教育委員の委嘱について
議案第 1 2 号 諫早市公民館運営審議会委員の委嘱について

1 6 時 3 0 分開会

議事録署名人の指名

原田委員と小野委員を議事録署名人に指名

議事の非公開

議案第 1 1 号及び議案第 1 2 号については人事案件であるため非公開

議事録の承認

令和 6 年第 6 回（5 月定例）教育委員会の議事録について
質問・意見なし
原案どおり可決

教育長の報告の要旨

《教育長の報告》

今回は 4 点挙げている。まず、学校の危機管理ということで、ハインリッヒの法則というものがあるが、1 つの重大事故に対して 2 9 の軽い事故があり、2 9 の軽い事故の背景には 3 0 0 のヒヤリハットがあり、小さな積み重ね、ちょっとしたほころびが大きな事故に繋がるという労働災害の考え方である。ネジが外れていたために大きな事故が起こったりする。だから、小さなところを普段から確認しておくという話であるが、学校事故においても同じことが言える。普段から子供たちの様子や環境整備については目配りをする必要がある。

学校事故にはどのような事故があるのかというと、児童生徒の問題行動によるもので非常に多いものはスマホ等の有害サイト関係で、

出会い系やゲームサイト等から発生するいじめや金銭トラブルなどである。他地域では性の問題等もあっているし、誘拐事件もこういうところからおきている。

それから、暴力行為、窃盗、薬物乱用もあるが、薬物乱用においては“痩せられる”“かっこよくなれる”といったキャッチフレーズで、簡単にインターネットで薬物を入手できると聞くので、非常に怖いし気をつけなければいけない。特に、いじめについてはSNSが絡んでいて、昔みたいに表だったいじめというよりも携帯電話を使った仲間外れなど地下に潜ったようないじめがあったりする。そうすると、教職員がなかなか分からなくなる。子供たちの地下に潜った闇の世界については非常に恐ろしいものを感じる。

また、学校行事に絡んだ児童生徒の様々なトラブルがあり、特に今からの時季は部活動等での熱中症に気をつけなければいけないし、夏休みの海・山・川での事故も気を付けないと、命を失くしてしまうようなことも起こり得る。他にも体育および理科の実験中の事故や食物アレルギーの事故がある。なお、食物アレルギーの事故であるのは、例えば担任の先生が出張していて、チェックは必ずするようにしているけれども、代わりの先生がそれを見逃してしまい、子供たちがわからないで食べてしまったというような事例である。最近諫早市では起こっていないが、二重、三重のチェックをするなど気をつけなければならない問題である。それに、自転車等の交通事故もあるし遊具での事故もある。遊具は日頃からよく点検しておく必要がある。

保護者や地域社会からの要望等は、指導に関わる要求ということである。最近、若い先生方が保護者を苦手にされている面がある。保護者から抗議を受けて悩まれたり萎縮されたりする。そして、都会に行けば行くほど、今度は教え方に対する抗議がある。あの先生の教え方は良くないとか。たくましく生きてほしいと思う。それと、近隣からの苦情もある。私もある高校で経験したが、高校の周りに住宅があり、高校で朝練をすると「朝からやかましい」、「寝ているところで、どうして声出して練習するのか」など、後から学校の近くに移ってきてそういう環境があると分かっているながら、文句を言ってくる。無言の練習をするのだが、どうしてなのだろうと思うことがあった。

自然・社会的な災害は、火災や地震、風水害、食中毒、コロナ、インフルエンザといった問題である。

教職員を巡る問題もある。体罰、犯罪、非行、交通事故、健康管理といった教職員を巡る問題である。最近では、諫早市では教職員を

巡る問題はあっていないが、日頃から注意しておく必要がある。

まとめであるが、24時間子供たちにずっとついて回るわけではないので、子供たち自身が危険を予測し、それを回避する能力、例えば、ため池があったときに入ってはいけないと年長の子供の誰かが教えたり、警告をしたりするということも必要と思う。加えて、用具および遊具の点検など学校の安全な環境を整備することが必要である。

事件、事故が起きたら慌てずに状況を見定め、機を逸しないで適切に動く。後手に回らないことが大事である。学校は様々なトラブルが起こるところなので第一歩が大事である。それを逃したがために、後でいろいろな問題が起きるということがある。だから、そのことは管理職の先生方には「何かあったらまず第一歩を踏み出してください」と厳しく話をしている。そして、誠意ある対応が大事である。最後は真心だと思う。“理は情に勝てず”というのが私のモットーで、理屈でいかなければいけないが最後は情である。理だけではなかなか解決しない問題もある。

また、理不尽な要求があったら毅然とした対応をする。様々な取り組みを進めるにあたって組織的かつ計画的に進める。危機管理マニュアルはどこも作っていると思うが、作っただけで終わることがないように普段からマニュアル等を生かしていく。学校だけではなく地域社会とも連携し、地域ぐるみで子供の安全を見守る体制を整備する。保護者、地域の方々と一緒になって学校を運営していくということが大事であり、校長会や教頭会でも話をしている。教育委員会の中でも実行していきたいと思っている。

2番目。不登校数の推移として昨年度までの人数を表にしている。30日以上休んだ不登校の子供たちは、実人数になるが小学校が昨年度119人と今までで一番多い。48人、58人、94人ときているので低年齢化している。中学校は139人、166人、206人、そして昨年度194人で、中学校は底打ちしたのかなという感じがするので、もうこれ以上多くならないことを期待したい。

不登校の低年齢化というのは全国的に言われている。長崎市も非常に多く、報告資料にあるように2026年4月に「学びの多様化学校」という不登校等の子供たちを対象にした学校をつくるようにされている。低年齢化に対する対策として、先月の定例教育委員会で委員からご意見いただいたように、ただ学校に戻すだけではなく、子供の自立的な部分を促していくことや、学校においては子供たちの居場所をいろいろと設けたり、相談体制を充実させたりして工夫していくことが必要である。思ったほどではないが増えていること

については、私達も危機感を持っているところである。

次に部活動について。部活動の地域移行については、文化部がなかなか動いていないが、特に喫緊の課題は体育部だと思うのでいろいろと検討している。8月1日に検討委員会を開催する。それを受けて、8月23日に学校関係者や保護者、部活動指導者、各団体の関係者等を招いて地域移行説明会を開催する。教育委員の皆様には7月の定例教育委員会で方向性をお示しできればと考えている。

説明会では、県の体育保健課と、今一番進んでいると言われている長与町の教育長を講師として呼びしてお話をいただき、諫早市の取り組みについても発表することになっている。内容としては、地域移行の国・県の動向、長与町の取り組み、諫早市の現状と課題および今後の推進計画としている。

令和7年度に全国中学校体育大会のバレーボール選手権が大村と諫早で開催される。諫早では開会式も含め試合が各会場で行われ、決勝戦は大村市のシーハット大村で行われる。また、インターハイが今年行われる。ローイング、ウエイト・リフティングの2競技が諫早に来る。なお、全中では一部の競技で、開催県や市の負担軽減や働き方改革、また勝負に対する過熱といったことを減らすため、中止するという話もあっているようだ。

最後に6月、7月の主な行事から。給食保護者交流会が6月5日にあり、保護者14名、市長、教育長、教育委員会職員が参加した。交流会での内容は、食材についてはオーガニック給食ができないのかという話があった。なかなか1万食をオーガニック食材で賄うことは難しい。そして、給食費の無償化については非常にありがたいということであった。また、牛乳パックが直飲みになっており、環境の問題もあってストローを使わずに直飲みするわけだが、戸惑いがある子もいてどうなのかとの意見があった。実際、聞いてみると学校の中では直飲みができないとか抵抗があるとかいう子もいて、希望者にはストローを使わせている。ほとんどが直飲みしているけれど、今後このことについてはいろいろな意見があると思う。次もぜひ給食保護者交流会をお願いしたいという希望もあったので、定期的な開催を考えてもいいかもしれない。

諫早の教育を考える三者懇が今日行われる。委員の皆様もよろしくお願いしたい。7月になると少年の主張諫早大会の開催や6月議会が閉会日を迎える。ちなみに、今回の6月議会では7人から教員不足の問題とか、なり手不足の問題とかいろいろな一般質問があったが、例年に比べて今回教育関係は少なかった。それから、図書館フェスティバルが6日、7日に行われる。24の市民団体グループ

に参加していただくけれども、図書館は今年１２０周年を迎えるのでその一環として開催される。この後もいろいろな行事が組まれている。

都市教育長協議会は、年間４回、春は長崎市で行われ残り３回は他の都市を回って行われる。全１３都市の教育長が集まっての会議になるが、今回諫早市が開催場所となる。７月１８日、１９日に開催され、１８日は協議を行う。諫早市から提案した協議事項は学力向上対策で、各市の取り組み等どうしているのか、また、成果が出たところを紹介していただくようにしている。翌日１９日は視察を考えており、ソニーの工場見学といさはやコンピュータカレッジを視察するようにしている。今、コンピュータカレッジでは非常に進んだＩＣＴの取り組みをされているので、参考になると思う。１９日は小・中学校の終業式もあり、２０日からは子供たちは待望の夏休みということになる。

諫早の万灯川まつりが２５日、昭和３２年諫早大水害の犠牲者の冥福を祈るということで午後８時に記念式典が始まって午後８時半から１万発の花火が上がる。

資料に掲載している写真は、中体連のバスケの写真であり、部活動の地域移行といった面も垣間見ることができるし、学校対抗の素晴らしい戦いもあって感動し、心を動かされた。子供たちが学校のため友達の輪の中で頑張った非常に良い大会であった。

《教育長の報告に対する質問・意見》

[委員]

児童生徒の事故・事件についてだが、教育長が話されたようにSNS絡みというのはいろいろなことが起こっていると思う。私が講話をする時に保護者へ伝えるのは、目に見える不審者に対する対応も大事だけれども、それと同じぐらいインターネット上にも不審者がたくさんいるので、そこに興味、関心を持ってほしいということであり、より一層その必要性を感じたところである。

２点目の不登校のところで質問なのだが、令和５年度の実数が増えているが、小学校の１１９人の学年ごとは何人になっているのか。また、小学校と中学校の全体の生徒数の母数が分からなかったのも、この不登校の人数は全体の何パーセントぐらいになっているのか伺いたい。

[教育長]

全体の３１３人は、約１万８００人いる中の２．９パーセントになる。学年はやはり６年生、５年生が多い。兄弟も影響している。

お兄ちゃんが学校に行っていなければ弟も行かないみたいなことがある。

今、スマホあたりのフィルタリングというのは、どのようになっているのだろうか。

[委員]

店頭でスマホを買う場合は、フィルタリングは義務化されている。ただし、今は店頭だけではなくインターネットでもスマホを買うことができるので、その場合は親がフィルタリングを入れるか入れないかということになる。それに、フィルタリングを入れると検索できることに制約がかかってしまい、子供が親のところに1回1回フィルタリングを外してくれと来るので、それが面倒くさくてすぐに外してしまうという事例も聞いている。1年後までフィルタリングを付けている保護者はとても少ないのが現状である。

[教育長]

売る時にはフィルタリングを付けて売っているのか。

[委員]

店頭で子供名義として買う場合には、必ずフィルタリングを付けないといけないとなっているけれども、その場所だけなので帰ってすぐ外しても支障はない。

[委員]

フィルタリングというのは、自分で外せるのか。

[委員]

自分でも外すことはできる。ただ、今は親が外すところが多い。私の高校生の息子も大学受験の関係でサークルのことを調べようとしたときに、例えば刃物みたいな名前が少しでも入っていると、すぐフィルタリングに引っかかってしまい何も検索できないような状況になり不便であった。しかし、そこまでしないと子供というのは有害なサイトに繋がる可能性が高くなるので、フィルタリングを付けないといけないということを、保護者が子供に言って聞かせないといけないのだが、なかなかそこが難しいのが現状である。

[委員]

フィルタリングをしていたら、出会い系サイト等には入れないということになるのか。

[委員]

基本的には入ることはできないけれども、有害サイトから不審者へ繋がってしまうだけではなく、SNS、例えばLINEで繋がっている中で不審者と繋がってしまうこともあるし、フィルタリングをしていると有害なものが全部フィルタを通してうまくいくという

わけではない。ただし、フィルタリングをしないとどんなものでもすべて入ってきてしまう。今日の午前中に小学校で講師として話をしたが、“写真”“裸”“アプリ”と入れて検索すると、写真があればその写真を全部裸にできるアプリが普通に手に入る。フィルタリングをしていなければ、子供がアプリを勝手に入れて学校の隣の席の子の写真を裸にすることもできる。ただし、それは表現の自由で、何も引っかかるものではないという現状があったりするので、大変な時代になってきている。万能ではないが最低限フィルタリングつけるようには伝えている。

[教育長]

ゲームサイトからも有害サイトに入っていけるのか。

[委員]

私の娘もあるファンクラブに入っているが、そのアイドル自体もいろいろなところと連携をしている。だから、ファンクラブに入るだけでいろいろなサイトと繋がるようにできていて、商業主義で繋がるようにできているばかりに、子供がどんどんそういうつながりに引き込まれていくという側面がある。子供たちに話をしながら大人として本当に申し訳なく思う。

[学校教育課長]

先ほどご質問いただいた不登校の学年別の数について、令和4年度の方で小学校が94人、中学校が206人である。学年別では、小学校の1年生から順に3人、8人、19人、15人、16人、33人。中学校は1年2年3年の順に、52人、84人、70人。3年生で70人に下がるのは、おそらく進路等に関わって、前向きな子供たちが増えることも要因として考えられる。令和5年度もおそらく同じような傾向ではないかと思う。

《非公開議事》

議案第11号 諫早市社会教育委員の委嘱について 及び
議案第12号 諫早市公民館運営審議会委員の委嘱について
生涯学習課長 一括して説明
削除

議案第11号 諫早市社会教育委員の委嘱について
原案可決

議案第 12 号 諫早市公民館運営審議会委員の委嘱について
原案可決

その他

教育総務課長

7 月定例教育委員会の日程について説明

学校教育課長

令和 6 年度研究指定校について説明

17 時 10 分閉会